

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	12-094	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Craving as a predictor of treatment outcomes in heavy drinkers with comorbid depressed mood. 抑うつ傾向を有する大量飲酒者では渴望は治療成否の予測因子となる		
<b>執筆者</b>		
Connolly JM, Kavanagh DJ, Baker AL, Kay-Lambkin FJ, Lewin TJ, Davis PJ, Quek LH.		
<b>掲載誌</b>		
Addict Behav. 2013 Feb;38(2):1585-92.		
<b>キーワード</b>		
渴望、予測、治療後、アルコール、抑うつ、併存症		
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> アルコール乱用と抑うつ症の併存は多く、治療後の転帰は芳しくない。治療後の効果を正確に予測できれば、事前の治療計画には有益である。アルコールへの渴望はこのような予測因子の候補として広く研究されてきたが、研究結果は必ずしも一致していない。そして、陰性感情と渴望との関連は確立しているにも関わらず、渴望の予測能が抑うつ併存により影響を受けるか否かはほとんど研究されていない。本研究では、抑うつ傾向を有する飲酒者を対象に、治療前の渴望状態 (Obsessive Compulsive Drinking Scale のうちの Obsessive subscale にて評価) が治療後 18 週及び 12 か月での飲酒関連アウトカムを予測するかを検討した。		
<b>方法：</b> アルコール乱用と抑うつ症併存者への治療に関する無作為化抽出試験 (Baker, Kavanagh, Kay-Lambkin, Hunt, Lewin, Carr, & Connolly, 2010) にて得られたデータを今回の検討に用いた。同試験からの二次サンプル 260 人の飲酒状態について Timeline Followback 法により評価したデータを解析した。		
<b>結果：</b> 治療前の渴望は治療後 18 週における週あたり平均飲酒量及び 18 週と 12 か月における短期大量飲酒の頻度の有意な予測因子であった。一方、治療前の抑うつ気分は予測因子ではなく、渴望は抑うつ気分の有無にかかわらず予測能を有していた。		
<b>結論：</b> これらの結果より、渴望は抑うつ気分よりも治療後の飲酒関連アウトカムの予測能が高いと言える。		